

鎌ヶ谷市政策評価表

政策の名称	22快適な暮らしの環境をつくります		
基本目標	2「自然と社会が調和する環境共生都市」をめざして	政策担当マネージャー	市民生活部長
重点政策該当有無		マネージャー氏名	宗川 洋一

I 改革・改善内容(=政策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	施策の実施箇所の決定については、事業効果の大きいところや緊急性の高いところを中心に行います。	③改革・改善内容	施策の実現には多額の経費と相当の期間を要することから、施策の効果が短期間で発現できるような計画の策定と財政状況や事業優先度を踏まえた上で、事業を進めていく必要があります。
②①に基づく取り組み結果	栗野の森やふれあいの森の整備や二和川・貯留地の整備などにより、各施策の基盤整備が整いつつあります。		

II 政策の目的・概要

①目的	対象	市民、事業者、団体等	意図(対象をどうするのか)	市民等が緑に包まれた居住環境の中で、安全で快適で文化的な生活を送れるようにします。
②政策の概要	すべての市民が緑に包まれた居住環境の中で、安全で快適で文化的な生活が送れるように、良好な住環境の整備、快適な公園・緑地の整備、うるおいのある河川・水路の整備、上下水道の整備、清潔な生活環境の整備を行っていきます。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	東日本大震災後の住宅の耐震化や地球温暖化対策として緑への関心の高まり、またゲリラ豪雨や台風に備えた河川水路の治水安全度の向上などの施策に対する市民や議会の意見は、より一層の充実が求められています。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成24～25年度の施策の成果	旧耐震住宅の改修に際し、耐震診断のみでも補助対象にするなど、施策の充実を図り、栗野の森やふれあいの森の公園整備や二和川・貯留地の河川水路整備、公共下水道の整備などを継続実施して、目標値に向けて、着実に成果をあげているところです。
------------------	--

②施策成果指標	指標名称	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標値(27年度)
	1	工事完了検査率	%	80.0	98.0	94.9
2	無料耐震診断相談会申込者への診断実施率	%	100.0	100.0	100.0	100.0
3	市民一人あたりの公園面積	m <sup>2</sup> /人	2.3	2.3	2.9	3.3
4	浸水面積	ha	125.1	124.6	124.6	123.9
5	浸透柵設置個数	基	6,174	6,263	6,411	6,800
6	上水道普及率	%	76.3	76.4	集計中	上昇
7	下水道普及率(処理区域内人口/行政区域内人口)	%	56.0	57.0	57.4	60.0
8	下水道水洗化戸数	戸	25,198	24,740	25,111	25,500
9	生活排水処理率	%	72.0	73.2	74.4	88.0
10						
11						
12						
13						
14						

③政策の事業費	平成24年度決算	平成25年度決算	市民一人あたり事業費(25年度決算)	平成26年度予算
事業費(千円)	3,442,647	4,398,108	40	4,030,541

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	この政策は、河川・水路の整備、上下水道の整備、公園・緑地の整備が大きなウエイトを占めており、これらの施策の実現には多額の経費と相当の期間を要することから、施策の効果が短期間で発現しにくいところです。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	施策成果指標では、快適な公園・緑地の整備、うるおいのある河川・水路の整備、上下水道の整備、環境衛生の充実などの施策において、目標値を達成できなかったことから、より一層、施策の充実が望まれます。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する施策	施策3 うるおいのある河川・水路の整備		
④上記方向性の説明	風水害や都市型災害などから市民の安全を守ることは、都市の基本条件であり、市街地での浸水被害を改善していく必要があります。当面はハード面での整備が必要となってくるため、コストの増加は避けられないものの、流出抑制策などのソフト面での対応と合わせて、国・県の補助制度などを活用して、効率的に施策を進める必要があります。		